

全代会の広報誌 Campus

No.
231



全代会って何してる?

全代会概論

特集

イベントと全代会

Apr. 2024

活動報告

Contents

004 全代会概論

008 イベントと全代会

010 活動報告

さあ大学の未来を共に。

筑波大学

全代会

All Colleges Students
Representative Council

全代会概論

筑波大学に「全代会」、正式名称「全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議」という組織があることをご存知だろうか？ 全代会は各学類・専門学群・総合学域群の代表者3人、および委員会活動のみを行う専門委員からなる学生組織だ。全代会は学内の教育・福利厚生・学内行事・大学運営など多岐にわたる問題を扱う。また、全代会は現在六つの常任委員会と三つの特別委員会からなっている。常任委員会には総務委員会、学内行事委員会、教育環境委員会、生活環境委員会、調査委員会、広報委員会がある。特別委員会は常任委員会では対処しきれない問題に対して設置される委員会であり、現在は情報処理推進特別委員会、新入生歓迎特別委員会、国際特別委員会が活動を行っている。それでは、全代会の全貌を見ていこう。

(山下)

大学に意見が届くまで

1 副学長・学生生活課に伝えられる

本会議の審議で可決・承認された議案は学生生活課を通して大学に伝えられ、解決に向けて大きく動き出します。また、週に1回、学生生活支援室長をはじめとした教職員とのミーティングも設けており、学生の生の声が教職員へと伝えられています。

2 学生の意見が全代会へ

「教育生活環境調査」という学生の意見や要望を集めるための調査があります。この調査は通年で行われており、全代会 HP に調査フォームが設置されています。左の QR コードよりアクセスすることができます。

3 実状の調査、解決に向けた検討

(意見に対する) 学生から寄せられた意見は、総合学域群の履修についてであれば教育環境委員会、学内道路の危険箇所についてであれば生活環境委員会といったように、その内容に合った全代会内部の委員会によって詳細に調査・検討されます。

4 本会議にて審議され、議決される

各委員会で検討が進み、議案として提出されると、各学類等の代表者が集まって開催される本会議にて、審議にかけられます。本会議については、5ページ目下段にも詳しく書かれています。ぜひご覧ください。

令和5年度全代会議長

林 凜太郎
はやし りんたろう
社会工学類3年

令和5年度は「基盤を整える」ことに力を入れてきました。菊田は規約、江波戸は広報、私は構成員の意欲向上というように、さまざまな側面から働きかけたことにより、全代会以外の組織と協働する基盤も整ってきたように感じます。

全代会は、全学の代表組織として学生生活をより良くするために活動しています。特に令和5年度は、専門委員として委員会活動に参加する構成員が非常に増え、さまざまな活動ができるようになってきたと思います。

今後は整ってきた基盤を生かし、学生に対しての働きかけのみならず、大学に対して、さらには学外に対しての働きかけをしていくことで、学生生活を「より良く」していくことを目指します。

令和5年度全代会副議長

菊田 一真
きくた かずま
情報科学類4年

令和5年度、私は制度面からの「基盤の整備」に取り組んできました。その中で注力した一つの側面が「やりたい活動ができる全代会」の整備です。

全代会では従来、予算制度の問題で有償のサービスを利用することができず、やりたい活動ができないという状況が生じていました。そこで、令和5年度からは新たな予算制度の運用を開始しました。これにより、有償のサービスが利用できるようになり、全代会として実施できる活動が大幅に増えました。

また近頃は、大学のさまざまな部署と交渉、協力したイベントの開催や情報システムの開発といった新たな活動にも取り組んでいます。

このように、全代会は「やりたい活動ができる組織」となってきました。「全代会で〇〇がやりたい!」という志を持って、全代会の活動に参加していただける方を心よりお待ちしております。

令和5年度全代会副議長

江波戸 憧音
えばと しょうおん
情報メディア創成学類3年

令和5年度は、学生生活課や学生交流課、施設部などと連携し、広報活動において全学的にアプローチできたと感じます。学生団体紹介誌の制作協力、節電を呼びかけるシールやポスターの作成、151周年記念事業などが良い例です。

また令和5年度はコロナ禍が明け、学生の課外活動が本格的に再開しました。大学全体の新歓の基盤整備に加え、全代会自体の新歓も大々的に行うことができたため、意欲的な新入生がたくさん参加してくれました。1年を通して、さまざまなイベントのサポートや課題としていた問題の解決に向け議論を重ねることができ、活発な1年だったと思います。

令和6年度もこの勢いを引き継ぎ、全学を支える学生組織として頑張っていきたいと思います。



全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議

All Colleges Students' Representative Council

(上図) 刷新後の全代会ロゴ

本会議とは

全代会は主な活動の一つとして「本会議」を開いている。「本会議」では全学から集まったさまざまな意見・要望に関する議題の審議を行っており、その議題は二つに大別される。一つは、学園祭や新入生歓迎祭などの学内行事に関わる議題である。予算案や決算に関する議題の他に、学園祭学生分担金の納入方法についても審議されている。もう一つは、各委員会から提出される学生生活に関わる議題である。委員会が提出する議題は、学生から寄せられた意見やクラス代表者会議での要望が元になることもある。過去には、学内ペDESTリアンデッキの補修を要望する議題や講義の履修方法、学生宿舍の環境改善に関する議題が提出された。

(鈴木)



令和5年度議長 林



令和5年度副議長 菊田



令和5年度副議長 江波戸

新入生歓迎特別委員会

沼田 航(めまた わたる・工学システム学類2年)

入学おめでとうございます。私たち新入生歓迎特別委員会は、学類や各新歓団体への情報提供、宿舎入居支援を通し、大学全体の新歓活動を取りまとめ、新入生のみなさまを温かく迎え入れるために活動しています。

入学してから、たくさんの新歓イベントが予定されていると思います。みなさまが心からそれらのイベントを楽しみ、「筑波大学に入ってよかった」と思ってくれることを願っています。

情報処理推進特別委員会

澁谷 耕大(しぶや こうだい・地球学類2年)

情報処理推進特別委員会（IPC）は全代会の外部とも協力しつつ、「情報処理の力で筑波大学をより便利にすること」を目指した特別委員会です。新入生向けにサークルを紹介する「新歓 Web」を始めとした学生向けサービスの展開や、情報技術をテーマとしたショートプレゼンテーションイベント（L T 会）の開催、その他課外活動団体向けの Web サーバの管理など、大学における情報処理をさまざまな面から推進しています。情報分野に興味はあるけど何から始めればいいのか分からない方から、実際に手を動かして技術を磨きたい方まで、参加を楽しみにしています！

委員会紹介

次期委員長からのコメント

国際特別委員会

吉川 栞(よしかわ もみじ・総合学域群第2類1年)

国際特別委員会は主に留学生の諸問題の解決を目的に活動しています。週1回のミーティングで「留学生が大学生活を過ごしやすくするためにはどうすればいいか？」を考えています。令和5年度は留学生向けに「Tsuku・Koi」という秋の新入生歓迎祭や、さまざまな国や地域の文化を紹介する「International Day 2023」を主催しました。留学生との交流や大学の国際化に興味があるという方はもちろん、「留学生と仲良くなりたい！」という方も大歓迎です！

※所属、学年は令和6年3月現在

「全代会に入りたいけど、どうすれば入れるの？」
と思っている、そのあなた！

ここでは全代会構成員になる方法
(2パターン)を簡単に説明します！

Join Us !

各学類等のクラス代表者会議
の代表者になる

各学類のクラス代表者会議の代表者は議長、副議長合わせて3人。この3人は本会議における議決権を持ち、全代会の委員会に所属する必要がある。

1

専門委員になる

専門委員は、委員会活動のみを行う構成員で、本会議における議決権は持たない。専門委員は誰でもなることができ、クラス代表になっていなくてもなることができる。なお、オブザーバーという形で本会議に参加可能。専門委員になるための詳しい方法は全代会ホームページ（<https://www.stb.tsukuba.ac.jp/~zdk/recruit>）を確認してほしい。

2

筑波大学の全代会には6つの常任委員会と3つの特別委員会が存在する。
各委員会が活動に責任を持ち、これらが相互協力することで全代会は機能している。
ここでは各委員長からのコメントを紹介しよう。

学内行事委員会

國崎 沙和子(くにさき さわこ・生物学類1年)

学内行事委員会は「学内」の「行事」などが円滑に進むように、学生と大学や後援会などとの間の架け橋となる委員会です。具体的には、大学や後援会などに提出する書類の監査、学生組織の長が集まる会議の運営などさまざまな活動を行います。そのため学園祭やスポーツ・デー、学類新歓などの行事に関わることが可能です。

多様な組織の人と活動をしたい、行事を支えたい、書類を見るのが好き、『なんだかこの委員会楽しそう!』という気持ちが少しでもある方、学内行事委員会でお待ちしております。

総務委員会

木下 湊花(きのした けいか・社会学類1年)

総務委員会を一言で表すと、組織を維持する上で欠かせない役割を担っている委員会です。業務の内容としては、本会議の準備と議事録作成、全代会室や物品の管理、全代会のネットワーク・PCの管理、全代会構成員名簿の管理と名刺作成、会計などがあります。このように多様な活動がある中で、自分の得意分野を生かしませんか？情報技術に強い方や裏方が好きな方、全代会には興味があるけど入りたい委員会が見つからないという方は、ぜひ総務委員会へ！

生活環境委員会

高橋 蓮(たかはし れん・人文学類1年)

生活環境委員会は「75分の外側をデザインしよう」というキャッチフレーズから表されるように、授業以外の学生生活の向上を目指す委員会です。具体的には、『教育生活環境調査』というアンケートに寄せられる意見を元に、学生宿舎や食堂などの福利厚生施設の改善、学内の放置自転車問題の解決など幅広い活動を行っています。

授業以外の学生生活の向上に関心がある人は生活環境委員会に向いていると思います。学生宿舎のあり方や放置自転車の回収などに興味がある方はぜひ生活環境委員会にお越しください。

調査委員会

坂入 快(さかいり かい・化学類1年)

調査委員会は、学生の貴重な本音に耳を傾け、その疑問や不満を解決し、大学をより良くすべくその名の通り「調査」をする委員会です。具体的には、学生全体に向けたアンケート作りや、ペDESTリアンデッキの危険箇所などに出向いての実地調査など、幅広いやり方で「調査」を行います。私たちはコミュニケーションを大切に、お互いにたくさん意見を交換しながら日々楽しく活動しています。ぜひ一緒にこの調査委員会で「調査」をしてみませんか？

広報委員会

榎本 陽子(えもと ようこ・総合学域群第1類1年)

広報委員会は全代会における諸活動の報告や広報活動、学生に有益な情報を発信することを目的とした委員会で、全代会の広報誌『Campus』や各委員会から依頼された広報物の作成、各種SNSアカウントの運用を行っています。

取材および記事の執筆、誌面の編集、ポスターなどの制作に興味のある人を募集しています！一緒に全代会をデザインしていきませんか？新規構成員お待ちしております！

教育環境委員会

江添 由(えぞえ ゆう・看護学類1年)

新入生のみなさま、ご入学おめでとうございます！教育環境委員会は、学生が授業を受ける中で持った疑問や要望を『教育生活環境調査』というアンケートで募集し、満足できる授業を受けられる環境を作ることを目標としています。この『Campus』を読んでいるそのあなたと、一緒に活動できる日を楽しみにしています！

イベントと全代会

開学50周年の記念企画「学生が創る筑波大学の未来」、留学生をもてなす秋の新生活歓迎祭「Tsuku・Koi」、世界各国の文化が交差する学生特別企画「International Day 2023」……。これらはすべて全代会の手によって実現されたイベントである。全代会に参加することで、どのような経験や成長ができるのだろうか？ 構成員の生の声をお届けし、全代会の魅力を紹介する。

(川島)

筑波大学50周年企画

筑 波大学50周年企画を担当した河野美羽（人文学類3年）は、元々令和4年度の全代会議長だった。それをきっかけに、学生生活課から声をかけられたことが、イベント運営をする発端となったと語る。

初めてのイベントをゼロから生み出すことは、決して簡単なものではない。すでに開催されている他のイベントと被らないように企画を工夫することに苦心した。加えて、それまで経験したことなかったスケールの計画作りに、自分の力量不足を感じることもあったという。対談中心のイベントにすると決めた後も、具体的な進行作り、音響やステージ作りなど、多くの苦勞があったと河野は回想する。

しかし、全代会の仲間の協力を受けながら、目標を大きく描くのではなく手の届く範囲に設定し、その達成を一つ一つ積み重ねること、具体的なイメージを頭の中に描くことで、計画を着実に進めることができたそうだ。



人文学類3年 河野美羽

Tsuku・Koi

こうして開催されたイベントは、河野が想像していたよりも多くの人が参加してくれたそうだ。計画の際には自身の力量不足を痛感させられたが、だからこそ今回の経験を同じ企画力やマネジメント能力が大いに成長したことも感じられた。「今後も、全代会の活動を通じてこのような企画をする人が現れてくれたらと思う」と締め括った。

(勝又)

「Tsuku・Koi」の運営は、自らの経験が、取りまとめ役としてのリーダーシップにつながる貴重な機会だった」と沼田航（工学システム学類2年）は語る。秋学期に入学する留学生を対象とした新歓であるTsuku・Koiは全代会が主催となり、学生交流課と学生生活課の協力のもと令和4年度から始まったイベントである。令和5年度は、運営元の委員会が国際特別委員会から新生活歓迎特別委員会（以下、新特委）に移管されたこともあり、委員長である沼田を含め、委員たちは手探りで企画を進める必要があった。その点を踏まえ、沼田は活動初期の苦勞として、「自分は一番前に立つことは苦手なので、リーダーとして活動を引っ張っていきけるか不安だった」と振り返る。しか

しながらその不安は活動を重ねていくことで解消され、最終的には「これまで全代会やサークル活動で経験してきたサポート役的な立ち回りが土台となり、委員に気を配りながら、適切にタスク分配ができた」と話す。

新特委には4月頃に宿舍入居支援を始めたとした新生活歓迎活動の支援が控えている。沼田は今後の展望として、「Tsuku・Koi」での経験を活かし、今度は委員会の主たる目的である新生活歓迎活動に対して、委員のみんなと楽しみつつ、委員長としてさらなるリーダーシップを発揮していきたい」と話した。

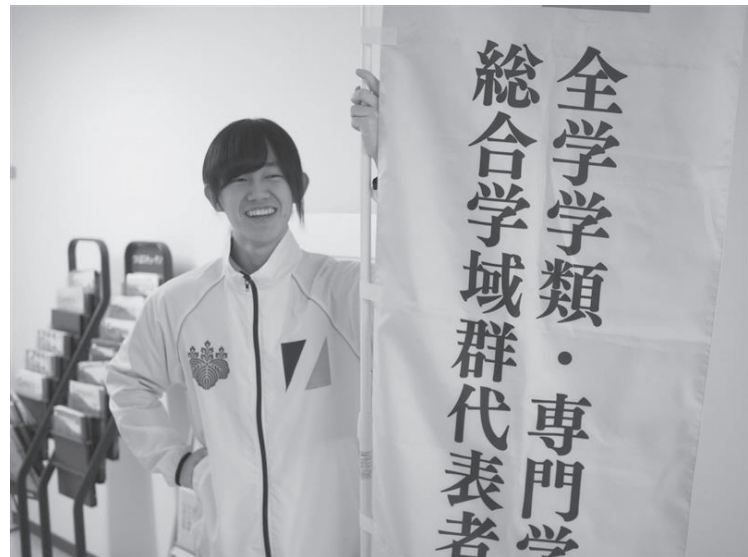
(篠崎)

International Day 2023

グ ローバルヴィレッジに住む梅基結（地球学類1年）は、留学生の履修登録を手伝った経験から、彼らに対して組織的な支援が必要だと感じるようになったと話す。その思いを実現するために国際特別委員会への参加を決めたそうだ。梅基は食品衛生担当としてInternational Day 2023に携わった。異国の食文化に触れる面白さと同時に、渉外の大変さを感じたと振り返る。それでも、自国の料理を振る舞いたいという留学生の思いに応えようと尽力し、イベント当日は全ての食品ブースが完売という成功を収めた。梅基は「反省点もあるが、来場者が食事を楽しむ光景にやりがいを感じた。今後もさまざまな国際交流イベントに携わっていきたい」と話す。

以前から異文化交流に興味があったという吉川栞（総合学域群第2類1年）は、英語を使う活動をしたという思いで国際特別委員会へ加入したと話す。吉川は、International Day 2023では講堂でのステージパフォーマンスの運営担当だった。出演者となる留学生に演出の希望を聞く中で、音響や照明にまつわる専門用語を翻訳する難しさを覚えたという。当日は配信での生中継も含めて無事に終了し、出演者から感謝の言葉をもらえてやりがいを感じたそうだ。吉川は「イベントの裏側で過ごした密な時間が糧になっている」と振り返り、International Day 2023での経験が、その後の活動へのモチベーションになったと語る。

国際特別委員会の今後の展望について、梅基は「この委員会が、留学生と日本人学生の垣根を取り払うことを目標としているということは、今はまだそれが成し遂げられて



工学システム学類2年 沼田 航



International Day 2023の様子

いないことを意味している」と語気を強める。そして、今回のようなイベントだけでなく、普段の学生生活における支援を強化していきたいと話す。吉川も同じく、「今回のイベントは活動の一部に過ぎなかった」とし、留学生のためにながでできるかを考えていきたいと話す。2人は声を揃え、「いつかは国際特別委員会が必要とされない大学になってほしい」、「留学生が大学に直接意見を出したり、全代会の専門委員になったりすることが当たり前になる大学になってほしい」と語る。

(高橋)

※所属、学年は令和6年3月現在

全代会活動報告

第3回本会議

日時…令和5年7月26日(水) 18時30分

場所…対面 3 A 2 0 4

(オンライン) Microsoft Teams

出欠…出席44 遅刻3

参考人…山岸史和(社会学類3年)

議題1『2022年度決算案について』

【採決結果】(採決時の出席者は42人)

承認42、否認0、保留0↓可決

議題2『2023年度予算案について』

【採決結果】

承認44、否認0、保留0↓可決

○議題について

議題1は、総務委員会から提出された、2022年度決算案の承認を求める議案である。全代会では大学の予算支援により必要物品の購入を行っている。これまで全代会では、物品購入以外のサービス使用料やライセンス料の支払いをしてこなかったが、2022年度から全代会で会計制度を設立し、これらの支払いを行うこととなった。決算案に関する説明の後、監査を実施した山岸の報告により、事実に基づいた会計が適切に実施されたことが確認された。

議題2は、2023年度予算案の承認を求める議案であり、同委員会から提出された。繰越金の内訳、経常費用等の説明の後、質疑

応答に移った。質疑応答では、会計制度が作られる以前の経常費用の扱いに関する質問が挙がった。これに対して、これまで大学の予算は役務提供等の使用料には適用されてこなかったが、会計制度を導入してから該当項目に費用を用いることができるようになったと説明された。

第1回意見聴取会

日時…令和5年9月27日(水) 18時30分

場所…(対面) 3 A 4 0 2

(オンライン) Microsoft Teams

出席…全代会構成員、学園祭実行委員

議題1『筑波大学学園祭実行計画書(追加提出分)について』

議題2『2023年雙峰祭二次予算案について』

○議題について

本会は、後日行われる第4回本会議において提出予定の学園祭実行計画書追加提出分と、それに付属する二次予算案について、学内行事委員会が事前に意見を求める場として開かれたものである。

全代会構成員から出された指摘や質問に対し、学園祭実行委員会(以下、学実委)が回答を行った。議題1では、仮設コンセントの設置場所に関する記述が不明確であるとの指摘があり、本会議提出時までに確定させることが確認された。議題2では、著作権料や脱出企画参加費の徴収など、学園祭出展者および参加者からの新たな収入項目の創設について質問があった。それに対し、学実委の藤井悠

羽財務局長(国際総合学類2年)より、学園祭の規模拡大に伴い収入を増やす必要があったと説明された。関連して、その他の項目における料金徴収の妥当性についても議論が行われた。

第4回本会議

日時…令和5年10月4日(水) 18時30分

場所…(対面) 3 A 2 0 4

(オンライン) Microsoft Teams

出欠…出席57 遅刻1 早退1

参考人…学実委より14人

議題『筑波大学学園祭実行計画書の承認について』

【採決結果】(採決時の出席者は56人)

承認56、否認0、保留0↓可決

○議題について

学内行事委員会から、学園祭実行計画書追加提出分および二次予算案についての議案が提出された。これらは、第1回意見聴取会での議論をもとに修正が加えられたものである。

質疑応答では、まず意見聴取会において本会議で回答するとした質問と、事前に Google Forms で募集した質問に対する回答が行われた。その後は、予算書における前年度決算との金額の比較において、予備費の欄に前年度決算額として記載されているものが、決算において当期繰越金として書かれたものではないかとの指摘があった。それに対して学実委は、事実として捉えて問題ないとした上で、来年度以降の表記法の改善を検討すると回答した。

第5回本会議

日時…令和5年11月15日(水) 18時30分

場所…対面 3 A 4 0 2

(オンライン) Microsoft Teams

出欠…出席56 遅刻1

議題『全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議について』の会議に関する事項の改正について』

【採決結果】(採決時の出席者は56人)

承認54、否認0、保留0、棄権2↓可決

○議題について

菊田一真副議長(情報科学類4年)から提出された、『全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議について』の会議に関連する事項の改正案について、審議が行われた。本改正案は、本会議での議論の円滑化を図るものであり、近頃増加傾向にある動議提出について規則を十分に整理することや、代理出席制度を有効活用するための手続きを明確化することが主な目的である。

質疑応答では、新たに追加された「動議の成立には、原則として提案者のほか4名の賛同者を要する」という条件の「4名」の根拠について質問が出された。これに対して菊田副議長から、ひとりよがりな発言が動議として認められることを避けるためであると回答された。また、「成立した動議が会議出席者の過半数の賛成を得た場合、議長はこれに従う」という記述について、改正前の条件である「構成員の過半数の賛成」から緩和されたことについて理由が問われた。これに対して、出席者数によっ

ては動議の可決ができなくなる可能性があり、それを避けるためであると説明された。

副学長等と全代会構成員との懇談会

日時…令和5年12月6日(水) 18時30分

場所…1A棟食堂

出席…副学長(学生担当、教育担当、

国際担当、企画評価・広報担当)、

スチューデントサポートセンター関係

教職員、学群長・学類長等、関係事務

職員等、その他関係教職員、全代会構成員

○懇談会について

副学長等と全代会構成員との懇談会(以下、副学懇)は年に2回開催される、全代会構成員と副学長等をはじめとした各学類等の教職員が対面で意見を交わし合うことができる重要な会である。今回の副学懇は、本間三和子副学長(学生担当)および林凛太郎議長(社会学類3年)の挨拶から始まった。

続いて全代会からの議題について意見交換がなされた。提案した議題は三つであり、以下に意見交換の内容を記述する。

①総合学域群のカリキュラムに関する提案

総合学域群は自身の進路に合わせて幅広いカリキュラムを選択できる制度である反面、学生からはさまざまな問題が指摘されている。全代会独自の調査の結果から、履修したい科目の時限が重なり、幅広く科目を履修することに困難を感じる学生がいる点が問題として挙げられた。

これに対して、山中弘総合学域群長らは、総合学域群生の履修に対する不安に理解を示しつつも、単位制限の妥当性や履修配慮の限

編集後記

『Campus』を作りながら、こう考えた。

” 智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。とかくに人の世は住みにくい。 住みにくさが高じると、安い所へ引き越したくなる。どこへ越しても住みにくいと悟った時、詩が生れて、『Campus』が出来る。

今号から編集長を務めます、大谷です。全代会を、全代会の広報誌『Campus』を、どうぞよろしく願います。(大谷美琴)

出典 夏目漱石『草枕』

委員長としての1年を終えて

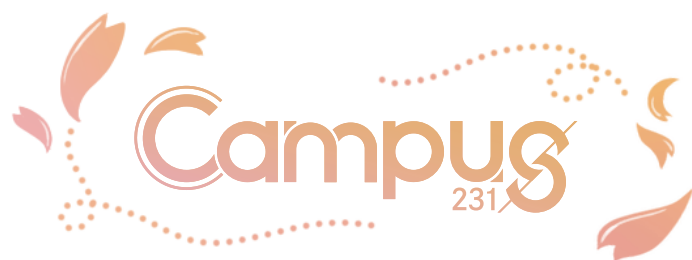
新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。昨年度広報委員長を務めておりました篠崎健太です。さて、皆様がこの文を見ている頃には委員長の役目を終えているわけですが、昨年度の委員会は、一言で表すと「委員はじめ周囲の支えがあつての委員会」でした。広報委員のみんなの協力がなければ実現し得なかったことは一杯あるし、みんなが活動をつづけてくれたおかげで、今年度の広報委員会が少しでも活躍できるようなきっかけを作ることができたんだと日々思っています。今後も広報委員会が全代会の最前線を描き続けるかっこいい組織でありますように。(篠崎健太)



全代会の広報誌
No. 231 Apr. 2024
2024年4月1日発行

編集長	大谷 美琴		
発行人	榎本 陽子		
表紙デザイン	高塚 絢湖		
編集委員	佐藤 翔哉	菅原 由乃	江波戸 憧音
	熊谷菜々恵	和田 優斗	甘利康志朗
	川島淳一郎	佐藤 凌	大谷 美琴
	篠崎 健太	勝又 玲	高橋 愛果
	近藤あかね	水野 舞優	山根 千幸
	高田梨々子	高橋 伊織	松本 英愛
	小林慎之助	岡本 翔太	鈴木 史磨
	榎本 陽子	山下 大樹	徳野 眞大
	山本 詩温	高塚 絢湖	佐藤 涼穂
	山田 美浩	太田 祈心	

発行 全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議
広報委員会
https://www.stb.tsukuba.ac.jp/~zdk/
(publicity@zdk.tsukuba.ac.jp)



Thank you for reading!